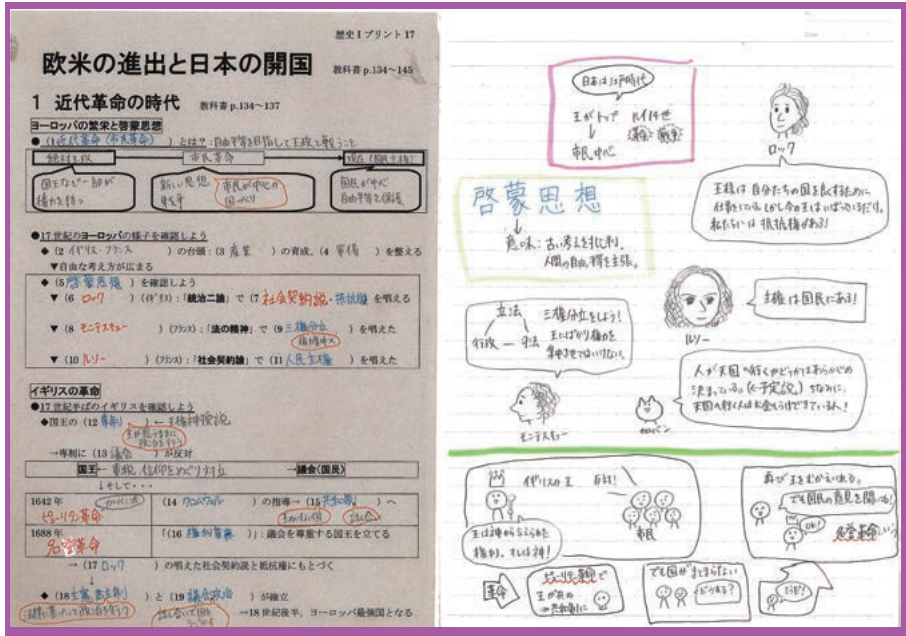


Be a good student and a good athlete

学校生活の工夫



社会の授業では、先生が歴史の流れを説明してくれます。私はそれを4コママンガにしています。

風刺画などは印象に残りやすいので、ノートに書くようにしています。

年表などのグラフも記入して、横に説明をまとめておきます。

なるべく授業中にノートにまとめできるようにしています。

テスト前や分からないときに、このノートを見れば思い出せるので役に立っています。

中学3年 演劇部所属



勉強とクラブの両立を実現する中学3年生の生活 中学3年 卓球部所属

平日(クラブがある時)

6:30	7:15	7:20	8:00	8:20	15:30	17:30	17:40	18:20	19:15	20:00	20:45	21:45	22:00-22:30
起床 & 準備	通学	スクールバス(SB)乗車	学校到着	学校生活	部活動 卓球部	SB乗車	SB	夕食	自由 ピアノ テレビ	入浴	勉強 復習 予習	翌日の 準備	就寝

休日(クラブが休みの時)

8:00	8:30	10:00	11:00	12:30	13:15	18:30	19:30	20:00	20:45	21:30	22:00
起床	自由	勉強 ピアノ	自由	昼食	自由	夕食	テレビ	入浴	自由	翌日の 準備	就寝

土曜日は部活動です。日曜日にも試合などが入ることがあります。
テスト一週間前は、勉強時間を増やします。
平日は2時間程度、休日は4時間程度増やします。

	月	火	水	木	金
礼拝 8:20-8:40					
1時間目 8:50-9:40	体育	公民	EC2	理科	美術
2時間目 9:50-10:40	EC1	理科	国語	数学	EC1
3時間目 10:50-11:40	理科	数学	体育	技家	国語演
4時間目 11:50-12:40	日本語	数演習	数学	EC1	音楽
昼休み 12:40-13:20					
5時間目 13:25-14:15	公民	国語	理科	LHR	体育
6時間目 14:25-15:15	聖書	EC1	公民	国語	公民
7時間目 15:25-16:15	数学		放課後		



対談

池田健夫

近江兄弟社学園理事長

杉田桃花

近江兄弟社中学校文化祭実行委員長

福田七菜

近江兄弟社中学校生徒会長

この中学校からは様々な高校に進学する生徒がいます。近江兄弟社高校以外の高校に進学する生徒には、この学園で身につけたものを用いて日本を背負っていく、日本のリーダーになるという志を持つてほしいと思っています。

「私は今、中学3年生として自分自身の進路に向き合う時間を過ごしています。自分が進む進路、進みたい進路を考える今、この学園での学びが何であるかについて改めて考えています。池田先生は、この学園でどのような生徒を育てたいと考えておられますか。」

この二つがこの学園から得ることができたものです。君たちにもこの学園でこのような経験をしてもらいたいと思っています。

もう一つは、人との出会いです。今も同級生とは深いつながりがあり、助け合う関係が続けています。私の同級生に限らず、卒業生の中には、母校のためならという気持ちで、自分の利益を削ってこの学園を助けてくれる人がいます。この人たちとの出会いは私の財産です。

「本日はありがとうございました。いろいろな話を聞かせていただき、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。先生の言われたように、私も人とのつながり、縁を大事にしていきたいと思っています。」

そしてもう一つは、人と心を通い合わせることでできる人になることです。「縁がある」という言葉がありますが、これには、「縁を大切にすることが必要となります。人へのやさしさ、思いやり、困っている人がいれば進んで助ける、こういう心を持たなければいけません。人と競う、人よりも上に立つことを目指す生き方ではなく、共に生きる、教えあう、支えあうことを生き方の中心に据える人になってもらいたいと思っています。」

それは、考える力を持つことです。今の日本のテストや入試制度、これは近いうちに変わっていくでしょう。知識を得て、問題に解答するような今のテスト形式から、答えを出すためにどのようなプロセスを経るのか、どのように考えるのかが問われるようになっていきます。これに対応するためには、学習だけでなく、様々な教養、経験を身に付けることが必要となります。実際、現在の世界では、このような形式で入学試験を実施している国が多くなっています。この変化に向けて、この学園で学ぶ生徒たちには深い教養を身につけ、考える力を養ってほしいと思います。

「グローバルに活躍する人になるためには、どのようなことが必要になると思われるでしょうか。」

「今日は貴重な時間をさいいただき、FUTUREの取材を受けてくださりありがとうございました。この雑誌は、私たち近江兄弟社中学校生徒会が2012年から発行しているものです。FUTUREという雑誌名には「未来」という意味を込めています。これからの未来を生きるわたしたちに必要な事を教えていただきたいと願っています。今日はよろしく願います。」

「私は公立の中学校ではなく、キリスト教主義学校を選びました。学校生活が黙祷で始まり黙祷で終わることに新鮮さを感じています。また、礼拝を通して様々な講師の先生から日々の生活の中で活かせる貴重なお話をしていただける事が良いことだと思っています。村田先生は、キリスト教主義の学校で学ぶ意義をどのように考えておられますか。」

例えば聖書を読んだり、聖書の言葉を聞いたり、讃美歌を歌ったりという機会があると思います。それから、今おっしゃったように黙祷する機会があると思います。近江兄弟社も同志社もキリスト教主義の学校ですから、キリスト教の聖書を読み、讃美歌を歌い、そして祈るわけです。

大事な事は、祈るという事だと思っています。キリスト教の神様に祈るのか、仏教で仏様に祈るのか、あるいは、心の中でただ単に祈るのかを問うことが重要なではなく、祈るという行為そのものがとても大事なことです。なぜかという人間だけが祈る生き物だからです。動物は祈りません。だから、祈るという事は人間である事を確認する行為なのです。

今、我々はキリスト教主義の学校で学び、キリスト教という道から祈っています。このことを大切にしなければなりません。これは、

考えておられますか。

戦争が無いから平和だというのは、一つの考え方です。皆さんがこれから高校、大学と進学し、政治や社会の事を勉強されると様々な事が見えてくると思います。例えば戦争とは何なのかという問いがあります。これは学問的には、非常に難しく、複雑な問題です。戦争と単なる殺人は違います。例えば、ナイフを持った人がいて、人を刺したら殺人罪ですね。でもこれを戦争とは言いません。では、何人殺されたら戦争なのか、あるいはナイフじゃなく拳銃だったら戦争なのか、でも拳銃を撃つだけだったら、それは大変な犯罪だけど戦争とは言いません。別の観点では、国が関わっていたら戦争という意見もあります。では、相手がテロリストだったら戦争じゃないのでしょうか。どれくらいの犠牲者が出たら我々は戦争なのか、誰と誰が戦ったら戦争なのかというように、実は戦争というのが何かとは、学問的に結論は出ていないのです。

戦争が明確に定義できないのですから、戦争が無い状態を平和と言ってみても、その平和がはつきりしないのです。

それから平和についても、あなたが言ったように戦争が無い状態が平和だという意見もあるけれど、人々が平和という言葉を使う時にも様々な使い方があります。例えば先ほどの祈りの話じゃないですが、皆さんが朝や、下校の時に黙祷されるという話ですけど、黙祷されている時に、非常に清らかな気持ちになると思います。それは心の中の平和ですよ。だから一人ひとりが祈っている時、我々の内側に平和があるのです。それは心の、個人の平和なのです。一人ひとりが安心する平和と、戦争が無くて世の中が安定している状況の平和は同じではありません。

また、戦争が無い状態を平和とすると、戦

我々の人生に与えられた出会いです。キリスト教主義の学校に入学し、我々はキリスト教と出会いました。ですから、キリスト教のやり方で祈ることを大切にしていきたいです。

大事な事は祈る時間を持つという事です。これを知り、経験することが、キリスト教主義学校で学ぶ意義だと思います。

「近江兄弟社中学校には、中学二年生の二月に沖縄研修旅行があります。先日、その事前学習の中で、沖縄の基地問題についてのディベートをしました。私のクラスは沖縄の方々の視点から考えて基地に反対する」という結論を出しました。沖縄の米軍基地について学ぶ為に必要なことを教えてください。

中学生の皆さんがそのような社会の問題について議論されるのは、大変良い事だと思います。それから、実際に沖縄に行ってみられて、沖縄の様子を直に体験されるのは大変大事なことだと思います。ただ、沖縄の方々の意見はつじやないのです。

沖縄の中にも様々な意見があるのです。もちろん、基地が自分たちの住宅や学校のそばにあることは、ほとんどの人にとって好ましい事ではないけれども、基地で仕事や商売をなさっている方々もたくさんいらっしゃいます。あるいは米軍関係者の方々と地域の方々が様々な形で交流したり、基地が英会話学校を提供したり、あるいはホストファミリーのような形でアメリカ人の方が地元のご家庭に泊まりになり、そこから友情が芽生えるということもあります。

だから、沖縄の地元の人だからみんな反対、という風に決めつけてしまわずに、そこにも様々な見方があることを知ること、様々な視点から沖縄を見る力を身に付けることが必要だと思っています。

争が無かったら差別があつてもかまわないのか。あるいは、貧富の格差があつてもかまわないのか。偏見があつてもかまわないのかという問いも出てきます。

戦争が無い状態が平和だということもありますが、戦争が無いだけで、差別があつて、偏見があつて、貧困があつて、そんな世界はダメだ。差別や偏見が無い社会を実現すること、それが平和だと考える人もいます。しかし、そのような平和を追求しようと思えば、そこから戦争が生まれるかもしれない。このように、平和についても様々な考えがあり、その立場の間でまた、矛盾が生まれるんです。

このように、平和を定義することは、非常に難しい問題なのです。答えは出ない問題です。何百年も何千年も世界中の人たちが考えてきて、答えは出ないのだけれども、なおかつ我々は考え続けなければならないのです。

「世界ではまだ戦争が続いています。なぜ戦争が起るのでしょうか。」

様々な事を勉強していけると学ぶ機会があると思いますが、先ほどの平和の話と同じです。どんなに立派な人でも他人に対して憎しみの気持ちを持つでしょう。あるいは他人に対して嫉妬とか妬みの気持ちとか持ちはますよね。どんなに立派な人だって怒りとか憎しみ、嫉妬のような感情を時として持つのです。それは仕方がない、我々は人間ですから。人間は、怒りや憎しみ、嫉妬を持つ生き物です。人間は不完全だから、人間が多く集まる国や町が出来る、そこで対立が生まれ、戦争が起る、これが「なぜ戦争が起るのか」という問いに対する一つの説明の仕方です。

それと、様々な議論がありますが、民主主義の国ではあまり戦争が起らない、独裁者がいる国は戦争になりやすい、あるいは、軍隊

「近江兄弟社中学校の目標の一つは、国際人になるということです。国際人になるためには、どのようなことを身につけなければならないでしょうか。」

一つは、現実の問題として、国境を越えて様々な国で仕事や学習をするためには、やはり世界で多く使われている言語、英語は必要ですね。ネイティブの人たちと同じようにきれいな発音でしゃべる必要はないけれども、仕事で不自由のない程度に英語が聞けたり、話せたりする必要はあります。

それから、英語といえば、すぐに英会話の事を想定して、ペラペラ話せる事が大事だと思うかもしれませんが、それよりも必要な力があります。世界で働いていこうと思えば、皆さんも携帯でメールするように、大人もパソコンでメールをします。ほとんどの仕事は今、メールで成り立っています。ですから、実は話したり、聞いたりする力より、読んだり、書



が大きな力を持つているような国は戦争になりやすい、というように国の政治体制から戦争を考える視点もあります。そうすると、どんな政治をやっているかによって戦争が起る、たり起こらなかつたりする、と言えるのです。例えば、世界中の国々が、民主的な国になれば、戦争が起らない、と言える理由は、実際、第二次世界大戦後に限ると、民主主義の国同士が戦争した事が無いからなのです。一方が民主主義で他方が違うというのはあるのです。だから世界中の国が民主主義になれば戦争が起らないと言えるのです。

あるいは別の議論では、中国がアメリカに對抗できるくらいになれば、やはり二つの大きな勢力があると戦争が起り易くなるという意見もあるのです。昔であれば、ソ連という国があり、アメリカとソ連が対立していました。たけど、強い国が二つあると戦争が起き易くなる、というわけです。だから、ある程度力を持った国が多くある方が戦争は起りにくい、とも言えるのです。

あるいは一つの国が、圧倒的に強ければ、どの国もその強国に對抗できないため、その時の方が平和だ、という意見もあります。逆に、強い国がいくつあるかという事によって戦争が起る、たり、起りにくくなったりするんだという風に言う人もいます。

このように、様々なレベルから何故戦争が起るのか、というのは議論され研究されているのですが、実はこ

いたりする力の方が大事なのです。読む、書く、話す、聞くといった英語が基本的に使える能力がやはり国際人にとって大事な条件だと思います。

けれども、もっと大事な事は、世界に出て行ったら我々が当たり前だと思っている事が、他の国では当たり前ではないかもしれないことを知ることです。世界には、我々の風習とは全然違った風習があるかもしれない、我々が正しいと思っている事が別の文化では間違ったことになっているかもしれないのです。国際的に活躍しようと思えば、自分とは考え方の違う人、立場の違う人を受け入れ、理解する、そのような姿勢が大変大事だと思います。それぞれの違いを認めながら、しかし人間なら共通に持っているはずの大切なものを追求する姿勢がないと、本当の国際人だとは言えないと思います。

それから、もう一つ言えることは、様々な地域、様々な国の人との話し合いや議論をする前に、自分自身が何者なのかというのを考えなければいけないということです。難しい言葉ではアイデンティティといい、自分が自分であるという事を確認することです。自分自身を常に見つめ直すこと、もしかしたら違う自分がいるかもしれないことを問うこと、そういう事も大変大事な事じゃないかなと思います。英語は出来なければなりません。けれども自分と違う立場の人を受け入れる姿勢がなければいけません。そして人間として共通のものを追求する意志がなければいけません。そして常に自分自身を見つめ直す、問いただすそのような姿勢がなければいけません。国際人になるという事は大変難しい事です。ぜひ、国際人を目指して学びを深めていってください。

「僕にとって世界の平和とは、戦争を無くす事だと思っています。先生は、平和をどのように

れも世界中の学者が知恵を集めても、まだ答えは出ていません。

なぜかというのを二つだけ言うと、中学校で理科を習うと思いますが、理科では、実験が出来ますよね。フラスコを振って科学物質を混ぜてみたら色が変わるとか、様々な実験が出来ますよね。けれども、なぜ戦争が起きるのかや、なぜ世界が平和なのかと言っているのか、なぜ世界が平和なのかと言っているのか、実験が出来ないのです。試しに戦争をやってみましょう、というわけにはいかないのです。そういう意味で政治や歴史の勉強は非常に難しい事なのです。



村田晃嗣（むらた・こうじ）
1987年3月同志社大学法学部卒。89年3月神戸大学大学院法学研究科博士課程前期課程修了、95年9月米国ジョージ・ワシントン大学大学院博士課程（政治学）留学。98年2月博士（政治学）の学位取得（神戸大学）。2000年10月同志社大学法学部助教授、05年4月教授、11年4月法学部長、13年4月から学長。1964年7月生まれ、神戸市出身。

たねや クラブハリエ

「洋菓子作りのスタートは、ヴォーリス先生からの言葉」

これからは、洋菓子の時代が来るでしょう。洋菓子を作ってみてははどうですか。 ウィリアム・メレル・ヴォーリス



クラブ・ハリエ日牟礼工房
パティシエ 森田ひろ子さん



たねや 近江文庫
理事長 川島 民親さん

たねや 広報
田中朝子さん

ヴォーリスさんは、昭和の初期、近江八幡の池田町に住んでおられました。当時、その近所に「たねや」のお店があり、近所付き合いをしていました。ヴォーリスさんがパティエを開かれた時、たねやにお菓子やパンを依頼されました。その中で、ヴォーリスさんから

近江兄弟学園では、卒業の時に、たねや・クラブハリエのバームクーヘンが贈られます。これは、学園の創立者ヴォーリス先生とたねやに深いつながりがあるからだと聞いています。ヴォーリス先生とのつながりを教えてください。

「たねや」の歴史を遡ると、江戸時代には材木屋をしていました。その後、種苗を扱うようになり、地元の方々は「種屋（たねや）」と呼ばれ親しまれていました。明治5年にお菓子屋としてスタートしましたが、お客様からつけていただいた「たねや」という名前を大切にそのまま残しました。（川島）

たねやの名前の由来を教えてください。

パティエを志した理由を教えてください。
パティエになろうと思ったのは、高校を卒業するときに、自分が好きなことを仕事につなげたいと思

たねやでは、その地域に根ざしたお菓子の展開もしています。また、クラブハリエの滋賀県内で販売しているケーキなどは、それぞれの店舗のシェフの方針のもとに構成されています。「その店舗にしかない商品づくり」をしています。（田中）

のでしょうか。

「これからは、洋菓子の時代が来るでしょう。洋菓子を作ってみてはどうですか。」という声掛けをいただき、洋菓子を作るきっかけになりました。スイートポテトが初めだったようです。ヴォーリスさんとたねやの洋菓子「クラブハリエ」は強い関係があり、離して考えることはできないのです。（川島）

滋賀県には、たねや・クラブハリエの店舗がいくつもあります。店舗ごとに売られているお菓子に違いがあると思うのですが、どのような方針があるのでしょうか。
バームクーヘンは、しっとりふんわりな食感。ほど良い甘さでどの世代にも好まれるものだと感じました。伝統的な商品でありながらも、新しさを感じさせてくれます。今回、試食をさせていただいた生徒会役員全員に好評でした。

洋菓子部門 人気ナンバー1 バームクーヘン



小さい頃からお菓子作りが好きで、自分が作ったものを「おいしい」といってもらえる喜びがお菓子作りのスタートです。今もお客様に「おいしい」と喜んでもらうことを最も大切にしています。初めて自分のお菓子を食べてもらえたときは本当に嬉しく思いました。お客様にお菓子を届けるためにも、もっと勉強をしなければならぬという気持ちです。（森田）

お菓子作りに対する考えを教えてください。

つたからです。高校時代には、自分でお菓子を作った、いろいろなお店を回ったりして勉強をしました。高校卒業後、専門学校で専門的な勉強をしました。（森田）

人と接する時に大切な事は何だと思われるですか。

相手が何を考えているのか、相手の立場はどうなのかなど、相手の気持ちを考えるという事が非常に大事だと思います。これが無ければ、自分とは親切にしているつもりでも、迷惑になつてしまうことがあります。同じように、自分が伝えたい事と、相手が聞きたい事が違つたら、やつぱりコミュニケーションは成立しません。ですから、相手の立場に立つて考えてみる事が大事だと思います。

ただ、他方で自分が伝えたい事をはっきり持っているかどうか、これが無ければ、やはり、コミュニケーションは成立しませんよね。相手は何を思っているのだろう、相手は何を聞きたいのだろう、相手は何をするのだろう、などと相手の事ばかり考えていても、自分に伝える内容が無ければコミュニケーションが成立しません。

相手の立場に立つて考えてみるという事と、伝える内容、自分が伝えたいメッセージをはっきりさせるというこの二つが大事な事じゃないかなと思います。

―効率のいい勉強法を教えてください。

例えば効率の良い数学の勉強法が、国語を習う時に有効とは思えません。ですから、教科によって勉強法を変える柔軟性が必要です。確かに、限られた時間の中に、中間試験があつたり、期末試験があつたり、それから入学試験があつたりしますから、効率のいい勉強もしないといけないかもしれません。その気になれば効率的になれるというのも大事な事ですけれども、しかし無駄を恐れてはいけな

と思うのです。
無駄がたくさんあるという事はすごく大事な事なのです。ある時に、こんな事は意味が



ないから覚えなくていいと、思つて省いてしまつたものが、将来、とても大事な事になるかもしれないわけですね。無駄だと思つて勉強した事が十年後には生きてくるかもしれないのです。
だから、無駄がたくさんある人生というのは大事な事で、必要な時には効率性になれる、けども無駄を恐れない姿勢が大事だと思うのです。
―ありがとうございました。今日、村田先生に教えてもらった事を、この雑誌を通して広く伝えていきたいと思っています。
また、私たちも日々の生活に生かしていきたいと思っています。

たねや・クラブハリエ、人気お菓子ランキング

Officia Ranking of たねや

和菓子部門 第一位
のどごし一番本生水羊羹



水ようかんの常識を打ち破る味わいです。口に入れるとすぐにとろけて、のどごしの良さに驚かされます。甘すぎず、さっぱりとした味わいは、夏の暑さにぴったり。ぜひ食べてみてください。

和菓子部門 第二位
ふくみ天平



自分であんこを最中の皮に挟むところに、ワクワク感があります。皮はサクツとしていて、中のあんこはしっかりと。あんこに包まれたおもちの食感が印象的でとてもおいしかったです。

和菓子部門 第三位
斗升最中



最中を口に入れると、あんこのつぶつぶがほどよく残って、口の中に味わいが広がります。ゆずあんの方は、香りもよく、さっぱりとした風味でおいしいです。みなさんも両方の味を味わってみてください。

ウィリアム・メレル・ヴォーリズの遺したもの



Architectural structures 建築物



近江兄弟社学園 教育会館・ハイド館

ヴォーリズが近江八幡に残した建築物の数々。50年以上前に建てられたそれらの建築物は、今なお、近江八幡の町の中で、人々に愛され、大切にされている。建物に込められたヴォーリズの思いは、今もその中に入る者に伝えられ、伝え続けられている。



近江八幡郵便局舎



近江八幡県立八幡商業高等学校



アンドリュース記念館

Map of structures in Omihachiman 近江八幡に残るヴォーリズ建築

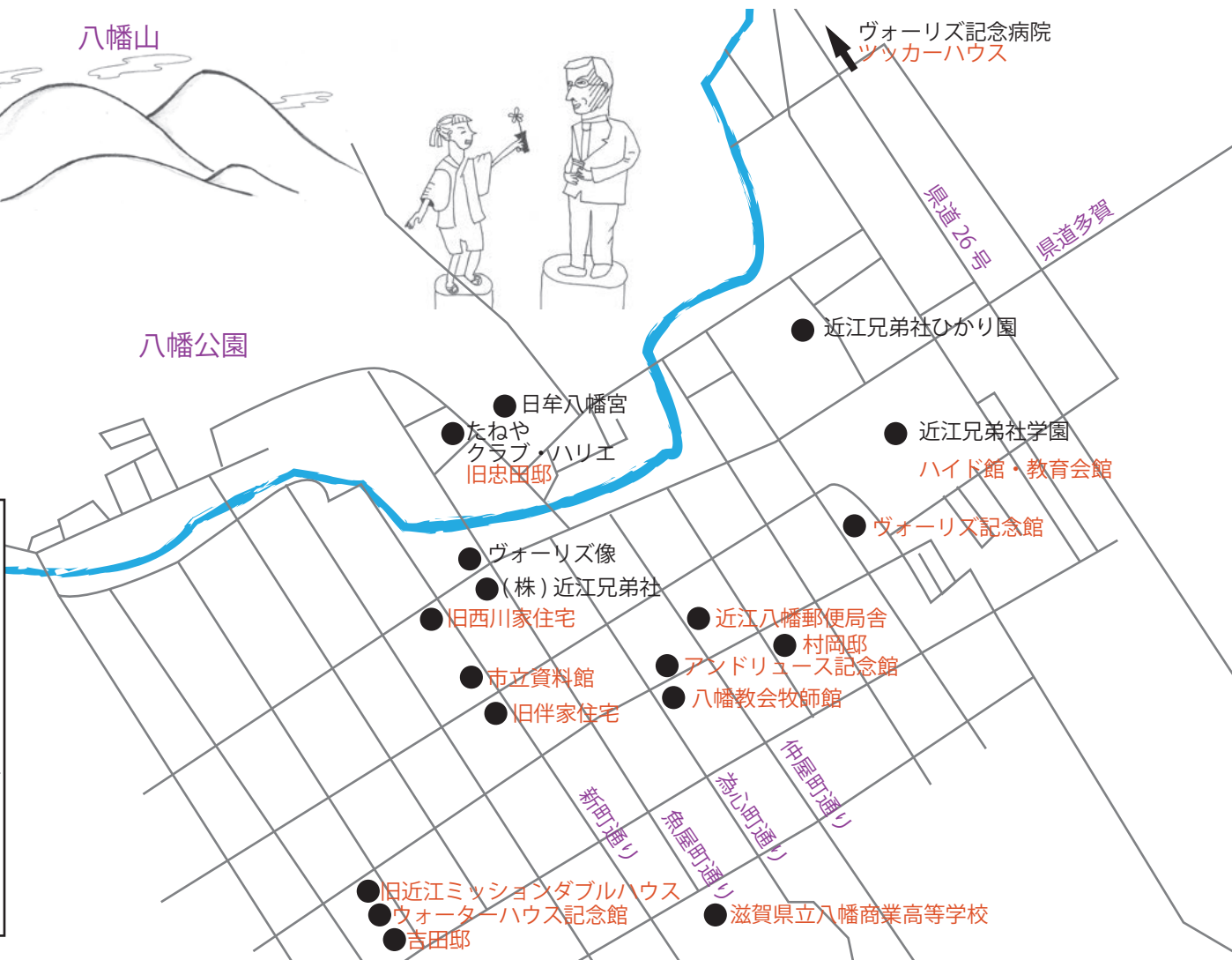
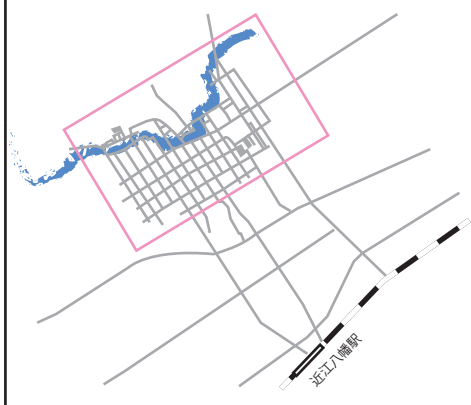
八幡堀周辺

ヴォーリズは、「近江八幡は世界の中心」と表現し、この地に留まりつづけました。

近江八幡には、ヴォーリズの活動の記録が様々な形で残されています。

近江八幡に残るヴォーリズ建築、ぜひ実際にご覧になってみてください。

近江八幡駅から八幡堀周辺



2014年10月4日(土)～11月3日(月・祝)の期間、近江八幡市内のヴォーリズ建築を用いてヴォーリズメモリアル50 in 近江八幡が行われます。ヴォーリズの軌跡を巡り、その功績と思想に触れる機会です。ぜひ、近江八幡に来て、街並みとヴォーリズに触れてください。

ヴォーリズ・メモリアル50 in 近江八幡

会場
近江八幡市内のヴォーリズ建築でテーマ別に分散展示



10月12日(日)講演会「ヴォーリズと満喜子、そして神戸女学院」
講師：玉岡かおる 小説家 ヴォーリズ平和礼拝堂 14:00-16:00
10月18日(土)講演会・シンポジウム「いのちと平和とヴォーリズ」
講師：姜尚中 聖学院大学学長 近江八幡文化会館大ホール 14:00-16:00

ウィリアム・メレル・ヴォーリズの略歴

1880年 誕生
(アメリカ カンザス州レパース)
1905年 来日
八幡商業学校英語教師
1908年 建築設計監督事務所開設
1910年 ヴォーリズ合名会社設立
1918年 近江療養院開設
1919年 一柳満喜子と結婚
1920年 ヴォーリズ建築事務所
近江セールズ設立
ブレイグランドを開始
1922年 清友園幼稚園が認可
1933年 近江勤労女学校開設
1934年 近江ミッションを
近江兄弟社に改名
1935年 近江勤労女学校を
近江兄弟社女学校と改称
1941年 日本国籍取得
一柳米来留と改称
湖畔プレス社設立
1947年 近江兄弟社小学校
近江兄弟社中学校開設
1948年 近江兄弟社高等学校設置
1951年 学校法人
近江兄弟社学園設立
1958年 近江八幡名誉市民に選出
1964年 83歳で召天

Vories's zeal for education ヴォーリズの教育への熱意

ヴォーリズメモリアル50 in 近江八幡



【獲得した日本一の称号】

近江兄弟社中学校を卒業したJRAジョッキー

ジョッキーとしての生活の原点は「日本一になりたい」という思いだった。何事も楽しむという信念を持ち、ついに「日本一」の称号を得た福永さんが語る人生の楽しみ方、そして世界への挑戦。



福永 祐一 Yuichi Fukunaga 「目標は世界トップ」

1976年、滋賀県生まれ。小学校から高校1年までを近江兄弟社学園で過ごす。その後、競馬学校を経て、ジョッキーとなる。1996年初騎乗初勝利を挙げると、JRA賞最多勝利新人騎手を獲得。1999年には桜花賞でJRA G1初勝利。その活躍は海外にも向けられており、2014年3月29日にはドバイ・メイダン競馬場で行われた第19回ドバイデューティフリーでの勝利を実現させた。

—この学園での思い出を教えてください。

小学校、中学校、そして高校の1年間をこの学園で過ごしました。君たちと同じように生徒会に立候補して、書記と文化祭実行委員長をしました。空き缶を紐で吊るして、大きな壁画を全校生徒で作りました。準備をする時間が楽しかったですね。このような経験は、学校の枠組み、学生の間にしか出来ないから、今の中学生にも楽しんでほしいと思います。中学生の時間、生徒会活動に熱中して、楽しいことを創り上げていってください。

—勉強についてはどうでしたか。

勉強については普通でしたよ。目立つ生徒ではありませんでした。授業中みんなでさわいいて「出て行け」と言われたこともありましたが、基本的なまじめなでちゃんとやっていたと思いますよ。成績も普通でした。

大人になってみて思うことは、勉強っていうのはしんどいとか、おもしろくないと思うと苦痛ではないけれど、学校に行っている時には学生にとっては勉強が役目、本分であって、やらざるをえないものです。大切なことは、努力を積み重ねるということです。何も努力をしていないよりも、努力している人のほうが成果も出るし、結果も出ると思うのです。

でも、一所懸命努力している人でも絶対敵わない人がいると思うのです。それは楽しんでいる人です。ジョッキーの仕事でも、どんなに一所懸命努力しても、楽しんで馬に乗っている人には絶対に敵いません。勉強を楽しんでいる人は少ないかもしれないけど、でも実際楽しんでやっている人にとって勉強は苦痛ではないはずなんです。だから僕はどうやったらいいかは分からないけれど、勉強を楽しめる方法、考え方が、どうやったら自分が楽しめるかを考えることが大切だと思います。

ですから、講演などをおして、「できることは誰にでもある」ということを伝えていきたいと思っています。

—今、目指しているものは何ですか。

今は、世界で活躍できるジョッキーを目指しています。もともと何かで日本一になりたいと思ってジョッキーになり、最初は夢だったものが徐々に目標になり、3年前に日本一になることができました。

その次の年にアメリカに2ヶ月行っただけです。競馬っていうのはもともとイギリスで始まってフランス、ドイツ、アメリカっていうのが競馬の一流国で、馬も強くて、歴史もある国なのです。日本は最近まで競馬の世界では一流国とは認められていませんでしたが、最近では日本の馬が強くなり、一流国と認められるようになりました。でも、ジョッキーに関してはまだ一流国とは認められていません。2ヶ月間、アメリカに行きましたが、一勝しかできませんでしたが、自分が思っていた以上に技術的な差があると痛感させられました。それでも、アメリカでいろいろな技術を身につけて日本に戻ってきたら、去年、もう一度に日本一に出来ました。今は、世界トップの騎手を目標にしています。ジョッキーは長くやれる職業ですが、僕は35歳から45歳がもっとも活躍できる時だと思っています。だから勝負をするなら、この数年で世界に挑戦したいと思っています。

—近江兄弟社学園での学びを振り返ってください。

僕はやはり、近江兄弟社から影響を受けています。特にトイレ掃除、小学校の時、トイレの掃除をぴかぴかにさせられました。窓掃除もぬれた新聞紙で一度拭いてから、乾拭きをするなどさせられました。大人になった今でもトイレ

僕の仕事でも勝っている時が楽しいのは当たり前です。逆に、勝てない時は気持ちが沈みます。その時は、楽しむこと、せつかくこの仕事をしているのだから、自分を盛り上げてやっています。中学校の時もサッカーが好きだったので早稲練習とかも苦になりませんでした。このような感じで勉強が出来たら最高だろうと思います。

苦しいことも好きでやっていたら乗り越えられるものです。試合があるとか、勝って喜ぶとか、社会に出て同じです。人間関係とか、仕事の悩みとか、それも楽しむことが何よりも必要なことです。中学校当時、僕は栗東から通っていましたけど、朝5時半に起きてサッカー部の朝連に参加していました。大変だったけど、サッカー部での思い出は今でも忘れられないです。プロロック予選を突破して県大会に出た時とかの達成感は、今、ジョッキーとして経験するものより大きかったですね。

—ジョッキーという職業を選んだ時のことを教えてください。

お父さんが有名なジョッキーで、中学校の時「お父さん、お金持ちになりたい」、「有名になりたい」、「これが中学2年生の時の僕の3本柱でした(笑)。進路選択の時に、自分のおかれている環境と向き合って、ジョッキーならこの3本柱をかなえられなかったのです。当時、ジョッキーの武豊さんが活躍をされていたので、スポーツ新聞なんかでも競馬の記事が多かったです。武さんのお父さんもジョッキーで、僕と同じ境遇ということもあって、自分もこの道で日本一になつてみようと思いました。競馬にはそれまでは興味はなかったんですけど、「何かの道で日本一になりたい」という思いがあって、それを叶えるための手段としてジョッキーを選びました。でも実際、競馬の世界を知ってみると、面白くて、すぐに引き込まれていきました。

レは綺麗じゃないと嫌ですね。

また、何事も見返りを求めないこと、それを大切にしています。これはこの近江兄弟社で学んだことです。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」。確か小学校の教室に書いてあったと思います。これは今も社会の中で実践しています。見返りを求めない、自分がしてもらいたいことをする、してほしくないことはしない。見返りを求めず、自分がかんばれることを見つけることを大切にしています。

そして「地の塩・世の光」もやっぱり覚えています。染み付いているんですね。僕はこの学校に来て良かったと思っています。人前で話すとか、そういうことを入れている学校だったので、今、取材やインタビューを受ける機会がありますけど、この学校で人前で話す経験を得ていることが生かされていると思います。この学園の影響は社会で役立つと思います。自分の思い、主張を相手に伝える力っていうのは必要なものだから。

—最後に私たち中学生にメッセージを送ってください。

学校は社会に出るための訓練の期間だから、どうせ同じ時間を過ごすなら、漠然と過ごすのではなく、考えて今の時間を過ごす、何かを得てやろうと思つてやるのが大きな成果につながると思います。学校はどうせこななければならないんだから、何かを得るため、社会でいかすためと思つて、楽しむことが、大きな差を生むと思います。僕にとつてこの近江兄弟社での時間は、ほんとに楽しかったものばかりです。

とにかく、楽しんでやっている人には、敵わないからね。自分が楽しめる、打ち込めることを見つけていってください。